

乳幼児教育保育アドバイザーの効果的な活用について

1 これまでの取組

本市では、幼稚園、保育園、認定こども園、小学校において、連携や相互理解を図りながら、幼児期から児童期への円滑な接続と乳幼児期にふさわしい教育環境の整備を目指し、平成28年度から30年度までの3年間、文部科学省から受託した「幼児教育の推進体制構築事業」を活用し、「幼児教育センター」のあり方及び「幼児教育アドバイザー」の育成・配置について検討を行ってきた。

平成31年度には、「乳幼児教育保育支援センター」（以下、「センター」という。）を開設するとともに、幼稚園・保育園の園長経験者や学識経験者のほか、幼児教育・保育に必要となる様々な分野に関する専門的な知見または職務経験を有する人材を「乳幼児教育保育アドバイザー」（以下、「アドバイザー」という。）として委嘱し、センターに配置した。

令和2年度のアドバイザーは、26名体制で、幼稚園・保育園等を中心に、園内研修や園の環境づくり、子どもの姿の見取り方、気になる子どもの行動への対応、保護者対応などについて、支援を行っている。（別添【参考】「1 アドバイザー派遣実績」参照）

2 本市におけるアドバイザーの活用

(1) 幼児教育・保育に必要となる多様な専門分野から幼稚園・保育園等の運営を支援

平成28年度から平成30年度に、アドバイザーの派遣を行った幼稚園・保育園等（以下、「園等」という。）に対し、今後、どのようなテーマでアドバイザーを活用したいか調査したところ、「保護者支援」や「幼児教育・保育の内容」が7割を占めるなど、幼児教育・保育そのものに関するテーマが上位となる一方で、「子どもの心理」、「子どもの安全」、「食育」、「子どもの虐待」などの専門分野についても、一定程度の割合で活用を希望している旨の結果が得られた。

（別添【参考】「2 アドバイザーの派遣に係るアンケート結果」参照）

この結果を踏まえて、平成31年度以降、防災、防犯、心理、虐待防止及び衛生管理の分野に関して専門的な知見または職務経験を有する人材を順次、アドバイザーとして確保し、多様な専門分野から園等の運営を支援している。今後は、「食育」の分野からの支援につながるアドバイザーの配置についても検討する。

(2) 小規模な保育施設を対象とした支援

本市全体の幼児教育・保育の充実を図っていくためには、これまで主な支援対象としてきた幼稚園・保育園等に加え、小規模な保育施設に対してもアドバイザーを活用した支援に取り組んでいく必要がある。

小規模な保育施設の中には、職員が少人数であること等の理由により、職員を外部の研修等に参加させることが困難である場合が多いことから、アドバイザーを積極的に派遣することで、各施設において研修の支援や施設の実情に応じた課題解決に向けた助言等を行っている。

この取組では、計画的に複数回に渡って継続した訪問を行うことで、アドバイザーが職員や子どもの変容を捉えながら、施設の実情に則したフォローアップを行い、より効果的な支援としていくことを目指している。（別添「小さな保育園応援プログラム」リーフレット参照）

3 アドバイザーの育成

(1) 新たに委嘱したアドバイザーの育成

本市のアドバイザーが園等を訪問するに当たっては、「園等のよさを生かす」、「保育者とのよい面を伸ばす」、「組織の主体性を大切にする」ことを共通のスタンスとして支援を行っている。新たに委嘱したアドバイザー（以下、「新規アドバイザー」という。）に対しても、このスタンスを踏まえて、各人が持つ知識や経験を生かした効果的な支援が実践できるよう、次のように育成に取り組んでいる。

ア センターによる研修

新規アドバイザーに対しては、園等に寄り添った支援につながるよう、本市のアドバイザーが行ってきた支援の実践事例（別添「乳幼児教育保育アドバイザー実践事例集」参照）を活用しながら、訪問前の準備や訪問時の対応、訪問後の振り返りなどについて、センターにおいて研修を行っている。

また、新規アドバイザーの中には、幼児教育・保育以外の分野を専門とするアドバイザーもいることから、乳幼児期の保育と教育のねらいや幼稚園・保育園の役割などについて理解を深めた上で園等を支援していくよう、幼稚園教育要領や保育所保育指針をもとに、研修を行っている。

イ 経験豊富なアドバイザーによる実践での支援

新規アドバイザーが園等を初めて訪問する際などには、経験豊富なアドバイザーが同行することで、支援の実践の場において的確な助言を受けられることや、経験豊富なアドバイザーが園等を訪問する際に、新規アドバイザーが同行し、効果的な支援方法を見て学ぶことなどより、新規アドバイザーの実践現場での育成を図っている。

(2) アドバイザーの質の向上

園等を支援していくに当たっては、各園の運営方針、職員体制、施設環境、在籍している子どもの実態等がそれぞれ異なることから、園等の状況を踏まえたきめ細かな対応が重要となる。

こうしたことから、学識経験者以外のアドバイザーについては、定例的に勉強会を開催し、各アドバイザーによる実践発表を通じて、園等からの相談内容や課題解決に向けた支援方法などの情報交換等を行い、アドバイザーの実践力の向上を目指している。

また、広島県乳幼児教育支援センターが実施する研修などにも参加させることで、アドバイザーの質の向上を図っている。